



木更津高専だより

2025

98号

February



(高専ロボコン 2024)

Contents

校長挨拶	1
主事、専攻科長挨拶	2~3
地域共同テクノセンター活動報告	4
国際交流センター活動報告	5
ロボコン	6
学園祭、マラソン大会	7
4年生見学旅行、学生表彰	8~10
お知らせ	11

果て知れぬ旅へ

校長 先村 律雄



本科の卒業および専攻科の修了おめでとうございます。また、皆さんをこれまで長年にわたり育て、支えてこられたご家族にお礼とともにお祝い申し上げます。留学生の皆さんは、言語・文化の異なる地での生活、学習には大変な苦勞があったかと思います。

さて、本校は最初の卒業生を世に出して52年が経ちます。本校の教育は、判断力、創造力、実行力を備えた創造的エンジニアの育成です。この目的は達成されているのでしょうか。これは先輩方の社会的評価が答えを出していると思います。ただし、本校は、皆さんにその基礎を用意しただけで、将来の成功は皆さんの努力次第であることは言うまでもありません。

今年本校は、ロボコン2024全国大会に出場しました。ロボットがロボットを飛ばし、サンプルを持って帰還するという競技内容でした。競技を考案した委員、ロボットをつくる側の学生や指導教員の皆さん、競技として成立するのか半信半疑ではなかったでしょうか。全国大会では、満点や高得点を出すチームが現れました。この日のために、これらのチームはロボットの試作と操縦を何度も繰り返し、最高の仕上げで土俵に立ち、最高の結果を目指していることが伝わってきました。

社会や企業が皆さんに期待しているのは、果て知れぬ未知の世界に果敢に挑戦していく勇気であり、実行力です。約束されている成功ではありません。誰もやっていないからやってみる、どうなるかわからないがやってみる、面白そうだからやってみる。これが、創造的エンジニアです。そして、決めた目標を達成するまで諦めないことです。諦めない限り、レベルの向上はあっても結果の失敗はありません。

ロボコンでもう一つ忘れられないことがありました。1回戦、圧倒的な強さで勝ったチームがいました。このチームが優勝すると思っていたら、2回戦で審判の判定中にロボットを発射したため、やり直しの指示、慌ててセットしたのか発射と同時にロボットが破損、敗退しました。数秒発射を遅くすれば、普段通りセットすれば、と思いました。

世の中には運というものがあり、人生の大部分は理にかなっていると思いますが、何割かは運に左右されるようです。努力しても、どうしようもないときもあります。もし皆さんがこのような状況に置かれたら、現実を受けとめ、笑顔を絶やさず、諦めず、感謝の気持ちで、果て知れぬ旅を楽しんでください。

最後に、皆さんのご多幸を祈ります。

教務主事 内田 洋彰（機械工学科 教授）

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。4月からは新しい生活が始まります。現在、AI技術は急速に進化しており、それに伴い働き方や社会の構造も大きく変わりつつあります。皆さんも、ChatGPTをはじめとする自然言語処理技術に触れたことがあるかもしれません。これらの技術は、文章生成や音声、画像認識といったソフトウェア分野で既に広く活用されています。一方で、AIの可能性はさらに広がり、今後は製造業や自動車産業、エネルギー産業、建設・インフラ産業、医療機器産業といったハードウェア分野への応用が期待されています。例えば、ロボット技術や自動運転車、医療用ロボットの進化は、AIとハードウェアの融合によって加速しています。こうした技術革新が続く時代において、皆さんがどのように自らの道を切り開いていくのか、その基盤となるのが高専で培った基礎力です。この基礎力をさらに磨き、変化する時代に柔軟に対応できる力を身につけてください。皆さんのこれからの活躍を心より期待しています。

最後に、アイルランドの劇作家で、1925年にノーベル文学賞を受賞したバーナード・ショーの言葉を贈ります。「人生とは自分を見つけることではない。人生とは自分を創ることである。」



学生主事 坂田 洋満（人文学系 教授）

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。今日この日を迎えることができたのは、保護者をはじめ関係の方々を支えられ、皆さん一人ひとりが努力し成長した結果です。木更津高専での学びを通じて、たくさんの経験を積み、知識や技術を身につけてきたことは、これからの人生において大きな財産となるでしょう。

皆さんの在学中、社会は大きく変化しました。新型コロナウイルスの影響で遠隔授業が導入され、教育のあり方が一変しました。皆さんは其中で新たな学びの方法を模索し、技術を駆使して困難を乗り越えてきました。また、東京オリンピックの延期という前例のない出来事は世界中の人々にとって大きな衝撃でした。そして、ロシアとウクライナの戦争が勃発し、国際情勢が一変する中で、平和の重要性や世界とのつながりを改めて考えさせられました。このような激動の時代を生き抜いた皆さんは、今後どんな環境にも適応し、社会に貢献できる力を持っています。

皆さんが過ごした木更津高専は、自由な発想で仲間とともに様々な挑戦ができることも魅力の一つだったのではないのでしょうか？そのような高専生活で築いた仲間との絆を大切にして生きていって欲しいと思います。今後のみなさんの活躍を心より願っています。



寮務主事 大橋 太郎（電子制御工学科 教授）

卒業生・修了生の皆さん、このたびはご卒業・ご修了、誠におめでとうございます。また、卒業生・修了生のご家族の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。

皆さんが本校で過ごした学生生活を振り返ると、最も印象深い出来事として、コロナ禍での生活が挙げられるのではないのでしょうか。学校生活、寮生活、課外活動のすべてにおいて、初めて経験することが多く、不安な日々が続いた方も少なくなかったかと思います。そのような中、昨年度から徐々に従来の学生生活を取り戻し、今年度はコロナ禍以前の状態に近づけることができました。ただし、学寮では寮生の皆さんの安心・安全を最優先に考え、引き続き健康観察を行い、体調不良時には「forms様式1」の入力をお願いしてきました。この取り組みに協力してくださったことに、深く感謝しております。卒寮生の皆さんにとって「forms様式1」という言葉は耳にタコができるほど聞いたものかもしれませんが、数年後には笑い話のひとつになっていれど願っています。

皆さんが本校で学ばれた工学的な専門知識を存分に活かし、それぞれの道で自分のペースで活躍されることを期待しています。困ったときや迷ったときには、ぜひ良き仲間と語り合い、高専生活で築いた先輩・同輩・後輩とのつながりをこれからも大切にしてください。また、健康には十分気を付けながら、どうか力強く前進してください。皆さんのご活躍を心より応援しています。



専攻科長 大枝 真一（情報工学科 教授）

卒業生、修了生の皆様、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

木更津高専で過ごした学校生活はいかがでしたか。この間に歴史上、大きな革新がありました。生成AIの登場です。大規模言語モデルを代表とする生成AIは、文章やプログラム、イラストの生成など、これまで人間が担ってきた分野に新たな可能性をもたらし、エンジニアに求められるスキルや役割の変化を促しています。

こうした変化の中で必要とされる技術者はどのような人でしょうか？私は、「好奇心を持ち続け、自分を成長させることに喜びを感じる人」だと考えます。生成AIをただの便利なツールと見るのではなく、学びと成長のパートナーとして活用してください。そしてAIが活躍する時代だからこそ、エンジニアには問題解決力や創造力に加え、他者と協力し信頼を築く力が一層求められます。AIだけでは解決できない課題を、人との連携により乗り越えられる人材がこれからの社会で活躍するでしょう。「この人と一緒に働くのは楽しい」と思われるエンジニアになってください。

学問ほど面白いものはありません。修得した知識と経験を基盤に、自己研鑽に励み、新しい世界を築く技術者や研究者として活躍してください。大きな飛躍を心から期待しています。



地域共同テクノセンター長 島崎 彦人(環境都市工学科 教授)

地域共同テクノセンターは、本校の教育・研究活動の活性化と地域社会の発展に寄与することを目的として、産業界や自治体等と連携し、多岐にわたる活動を展開しています。令和6年度も、本校の教職員や学生をはじめ、技術振興交流会や地域社会の皆様からの多大なるご支援のもと、共同研究や受託試験、技術相談、テクノフォーラム等を実施しました。また、STEAM教育や生涯学習、リカレント教育の推進を目指し、公開講座や出前授業、キッズ・サイエンス・フェスティバル、レベルアップ講座等を精力的に開催するとともに、きさらづ市民カレッジや小中学校理科教員研修、イオンモールワークショップ等の企画にも積極的に協力してまいりました。

このほかに、本校でのスタートアップ教育を促進するための問題解決アイデアコンテストや、キャリア教育の一環としてのキャリアデザイン・ネットワーキングイベント等の企画・運営にも取り組んでいます。こうした多岐にわたる活動の詳細は、「地域共同テクノセンター年報」をご覧ください。以下では、特色ある2つのイベントに焦点を絞り、本稿執筆時点までの活動状況を報告します。

令和6年8月23日、約400名の小学生と保護者を迎えて「キッズ・サイエンス・フェスティバル」を開催しました。今回は、本校の教職員と学生だけでなく、技術振興交流会や日本技術士会千葉県支部の皆様からの協力を得て、過去最大規模での開催となりました。本イベントは、小学生に科学やものづくりの魅力を体験してもらうことを目的としています。体験を通じて芽生えた好奇心が、将来の科学技術立国日本の原動力となることを願っています。

令和6年10月29日には「第40回テクノフォーラム」をハイブリッド形式で開催し、約100名の参加者を集めました。本イベントは最新の科学技術の動向や時流に沿った話題をわかりやすく提供する、講演主体のイベントです。今回はJAXA地球観測研究センターの大木真人博士をお招きし、「人工衛星による宇宙からの災害把握」と題して講演いただきました。人工衛星による地球観測、すなわち、リモートセンシングは、気候変動の理解や災害対応、紛争監視等、我々が直面する様々な課題に対処するために重要な役割を果たしています。このたびは、とくに、能登半島地震をはじめとした近年の災害対応事例について、高度な内容を平易に解説いただき、また、質問にも丁寧にご対応いただき好評を博しました。

高専の使命のひとつは、社会課題に自律的に挑む人材を育成することにあります。最新の科学技術の習得にとどまらず、その社会実装を構想できる能力を備えた人材の輩出が求められています。そのような有為な人材を早期に発掘し、育成するための基盤となる教育・研究環境の整備・拡充をはかるため、地域共同テクノセンターは今後も、科学技術と社会との多様な接点を生み出す産官学の連携や地域社会との協働を強化してまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



キッズサイエンスフェスティバルの様子



テクノフォーラムの様子

国際交流センター長 SAPKOTA ACHYUT (情報工学科 教授)

国際交流センターでは、本校学生の海外研修、留学生の受け入れ、海外教育機関との連携などを行っており、多様な国際交流の実現を目指しています。令和6年度の前半には、以下の活動を主に実施しました。

■ 本校学生の海外研修

月	研修先・人数	研修内容
8月	シンガポール (6名) Republic Polytechnic, Nanyang Polytechnic	工学的なテーマで現地の指導教員の下でプロジェクト活動
8～9月	タイ(2名) Chiangmai Convention Center, Suranari Technical College	タイ教育省職業教育局(OVEC)およびOVEC管轄の職業訓練学校が開催した研究会と交流活動
8～9月	イギリス(9名) Cardiff and Vale College	Cardiff and Vale Collegeの施設見学、プロジェクト実習、文化交流
9月	マレーシア (8名) Sekolah Sultan Alam Shah	英語による授業参加、共同活動、文化交流

■ 留学生の受け入れ

月	研修先・人数	研修内容
4～8月	シンガポール (2名) Temasek Polytechnic	工学的なテーマのプロジェクト活動
6月	イギリス (13名) Cardiff and Vale College	授業参加、異文化コミュニケーションを含めた交流活動
6～7月	台湾 (3名) 国立聯合大学	工学的なテーマのプロジェクト活動
7月	タイ (12名) Chonbri Technical College	授業参加、プロジェクト活動、国際ワークショップ
9～1月	シンガポール (2名) Temasek Polytechnic	授業やプロジェクト活動
10月	タイ (20名) KOSEN-KMITL	授業参加、プロジェクト活動、国際ワークショップ
10月	マレーシア (13名) SAS, SAGA	授業参加、施設見学、文化交流、国際ワークショップ
10～12月	シンガポール (2名) Nanyang Polytechnic	授業やプロジェクト活動
10～2月	シンガポール (5名) Republic Polytechnic	授業やプロジェクト活動

■ 海外教育機関との連携

本校は、工学教育の国際的組織であるCDIOイニシアチブに加盟していて、海外の加盟校と連携して国際交流のさらなる強化を目指しています。令和6年8月にCDIO組織の全体的責任者及びアジア地域責任者が来校されました。タイ、モンゴルとベトナムに日本型高専教育モデルを導入されていて、本校はタイとモンゴルの高専教育に対して支援を行っています。11月にモンゴル科学技術大学附属高専校長が来校されました。



ロボット研究同好会 顧問 **伊藤 裕一**（機械工学科 教授）

■ 関東甲信越地区大会

2024年度の高専ロボコンは木更津高専主管、会場は千葉ポートアリーナで開催されました。テーマ名は「ロボたちの帰還」です。この競技は、射出したロボットの着地点の正確性を競う「着地」、BOX・ボールと形状や性質の違うオブジェクトを適切に「回収」、そしてそのオブジェクトをスタートゾーンへと持ち帰る「帰還」の3つのアクションに注目が集まる競技でした。関東甲信越地区大会では木更津高専を含む9高専10キャンパス、20チームがそれぞれのアイデアを凝らしたロボットを持ち寄りしました。

木更津高専Aチーム「きさぺん越冬隊」は、氷山に住むペンギンをモチーフにしたロボットで、その最大の特徴は仲間のロボットの助けを借りてダイナミックなジャンプでスタートゾーンへと帰還できることです。試合ではこのジャンプ帰還を見事決めることで、関東甲信越地区では数少ないBOX回収に成功したチームとなりました。

木更津高専Bチーム「宇宙鉄道の夜」は宇宙を駆け巡る鉄道をモチーフとしたロボットを製作しました。ロボット2が線路に見立てた2本の竿橋を伸ばし、ロボット3がBOXやボールを回収した状態で橋渡しの要領で帰還に挑戦するロボットでした。大会当日はトラブルが続発してしまい実力を出し切ることができず残念な結果となってしまいました。

木更津高専Aチームはそのダイナミックな帰還が評価され、8年ぶりの全国大会出場の切符を手にすることができました。また、大会協賛のマブチモーター株式会社様から審査員特別賞を頂きました。

今年の地区大会は、千葉県知事熊谷俊人様、木更津市長渡辺芳邦様をはじめとする多くの来賓の方をお迎えすることができ大変盛大な大会となりました。



関東甲信越地区大会 Bチーム奮闘中

■ 全国大会

きさぺん越冬隊が全国大会出場を決めたその日から AB混成チームから成る新生木更津高専チームが結成されました。デザインやアイデアをさらに広げ、より強固なものとするために千葉市動物公園を訪問し、ペンギンの給餌の様子・泳ぎ方を見学し、飼育員の方には詳細な生態についてなどお話を伺いました。また、地区大会にご来場頂きました千葉県知事、木更津市長への表敬訪問も実現しました。

全国大会の会場は毎年恒例の両国国技館です。大会では、1回戦豊田高専に勝利し、2回戦の小山高専(地区大会優勝チーム)に敗北(40vs50)を喫し2回戦敗退となりました。しかしながら愛くるしいペンギンのパフォーマンスが評価され、デザイン賞を頂くことができました。

ロボコン活動に際しまして保護者の皆様、教職員の皆様のご協力・温かい応援を頂きました。深く感謝申し上げます。また今回の関東甲信越地区大会は主管校ということでその運営に多くの教職員の皆様のご協力を頂きました。重ねて御礼申し上げます。



全国大会ビットでの一幕、大相撲では支度部屋として使われている場所です

学園祭(祇園祭)

学生主事補 能城 沙織(情報工学科 准教授)

11月2、3日に「あつまれこうせんの森」のテーマの下に木更津高専祇園祭を開催しました。1日目は天候の心配もあり、雨、風の対策で大変な面はありましたが、2日目は快晴となり、2日間合わせて約5000人のお客様にご来場いただきました。

祇園祭に向けた活動は、新年度開始してすぐの4月から始められており、実行委員会を中心として約半年間、学生達はこの日に向けた準備に取り組んできました。祇園祭では1、2年生のクラス企画、部活動や同好会による企画、研究室による企画、教職員企画等、多彩な内容が揃い、来場者の皆様に学生たちの活気と高専ならではの特色を感じていただけたことと思います。いつもと少し違う装いの学生もいて、学生達も自由に各々楽しんでいただけたように見受けられました。

祇園祭はほぼ学生達だけの力で企画、運営が行われています。多くの仕事が山積みの中、大きな問題なく祇園祭を終えることができたこと、本当に大人の目から見ても頭が下がるばかりです。寝る間を惜しんで運営に携わった実行委員の頑張り、また、スムーズに進むよう企画に取り組んだ学生達に拍手を送りたいと思います。



マラソン大会

学生主事補 水越 彰仁(電気電子工学科 助教)

12月19日(木)、気温が3℃ほどまで冷え込む厳しい寒さの中、本校では恒例のマラソン大会が開催されました。本科1年生から3年生を中心に、多くの学生が参加し、寒空の下でも元気に楽しそうに大会に臨む姿が印象的でした。

大会は学年ごとに分かれて行われ、1年生の部、2年生の部、3年生の部の順に競技が進行しました。コースは400mトラックを1周した後、正門を出て学校外周を反時計回りに裏門まで走り、再びトラックに戻るといふ周回コースを3周する、合計4.4kmのコースです。参加者たちは寒さに負けず、懸命に走り抜けていきました。また、今大会には有志の4年生と5年生がそれぞれ1名ずつ参加し、さらに校長を含む教員3名も加わり、学生たちと一緒に汗を流しました。今大会では、環境都市工学科3年の男子学生と女子学生がそれぞれ校内1位となり、その健闘ぶりが大いに称賛されました。

このマラソン大会は、本校の教育方針の一つである「心身の鍛錬」の成果を如実に示す、意義深い行事となりました。寒さに負けない体力と精神力、そして最後まで諦めずに走り抜く忍耐力を養う貴重な機会となり、参加した学生たちにとって大きな自信につながると考えます。



機械工学科

引率教員 板垣 貴喜

昨年度は初日に荒天で交通機関が乱れましたので、1日目は余裕を持って東京駅に11:30集合し、新幹線を利用してホテルに移動するだけの日程としました。

2日目は、午前中に枚方市の小松製作所/大阪工場にて主に建設機械の生産工程の見学をしました。自動車の生産の様に大型部品が組立ラインで組付けられており、使用する軸受サイズやグリス使用量のスケールの大きさに驚きました。午後には、摂津市のダイキン工業/淀川製作所にて主に空調機の製造や組立現場を見学させていただきました。影が出来ない様に照明を当て、塗装や表面状態をチェックするなど、高品質の製品を生産する工夫に感動しました。

3日目の午前中には京都府久御山町の京都機械工具/KTCものづくり技術館にて、工具製造の見学およびラチェットハンドルの分解・組付けを体験し、その機構や工具の進化を学びました。組付けの速さを競い、上位の学生には特別なプレゼントを頂きました。午後には寝屋川市のエクセディ本社に昨年度に引き続きお邪魔致しました。普段は見学できない貴重な研究開発の様子まで見学させていただき、さらに高専卒社員との座談会が開催され大変充実した訪問となりました。

4日目はホテルのチェックアウトを持って解散となり、学生自身の計画に基づいて帰路につきました。

今回の企業見学や旅行を通じて責任ある行動が取れる学生になって欲しいと思います。最後にご多忙の折、見学を受け入れていただいた企業様にはこの場を借りて感謝申し上げます。



電気電子工学科

引率教員 飯田 聡子

電気電子工学科では東海・近畿地方に行きました。

初日は愛知県の村田機械株式会社犬山事業所を見学しました。CNC旋盤やレーザー加工機、物流を支えるロジスティクスオートメーションの制御などを見学し、物流制御技術の高さに感銘を受けた学生も多く見られました。また、高専卒業生の社員の就職活動や仕事などを聞く機会にも恵まれ、良い経験となりました。

午後は滋賀県のカシワザ株式会社のビッグウイングを見学しました。高専卒業生の仕事などをご説明いただき、昇降機の製造現場を見学しました。研究塔では、90 m/minという速いながらも非常に静かなエレベータに乗り、技術力の高さを実感できました。

2日目はSCREEN株式会社彦根工場にて、初めてクリーンルームの身支度をして半導体製造装置の製造工程を見学し、貴重な体験となりました。見学先の会社では、各社の製品が相互に使用されており、B to Bの業態を知る上でも、非常に有意義な会社見学となりました。2日目午後は国宝の彦根城を見学しました。

3日目は大阪にて各自やグループで計画した興味ある場所を訪れました。

今後の進路を考え自分を見つめ直す上で、良い経験となった見学旅行でした。



電子制御工学科

引率教員 泉 源

電子制御工学科は関西方面への旅行を軸に、3社の企業見学を行いました。

1社目は、食品・飲料パッケージの製造・販売を行っている朋和産業株式会社を訪問しました。インクを扱う現場特有の匂いが安全対策の一環であることや、包装印刷には商品の賞味期限を延ばすための工夫が施されていることなど、身近なものに様々な工夫がなされていることを学びました。

2社目は、計量包装機器の製造メーカーである株式会社イシダを訪問しました。食品などの定量計量に欠かせない組合せ計量機やコンピュータスケールの製造現場を見ることができました。また、電子制御工学科から専攻科を経て就職された卒業生との交流も行いました。

3社目は、化粧品メーカーの資生堂大阪茨木工場を訪問しました。高価格帯スキンケア製品を製造している工場の現場を見ることができました。また、各種体験を通じて、昨今のスキンケア事情に触れることができました。

2日間の見学を終え、3日目はグループごとに大阪での観光を楽しみました。昨年度とは異なり、夏休み中の見学旅行であったため、服装に気を使った学生も多かったのではないのでしょうか。保護者の方々をはじめ、今回見学させていただいた企業の皆様には、行事へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。



情報工学科

引率教員 齋藤 康之

情報工学科は、東京、愛知、大阪、京都を訪れました。

1日目の午前は東京都内のアット東京にて、無数のサーバ群の発する熱や音、データセンターとして「24時間365日ノーダウンオペレーション」を実現している高信頼性の電力供給設備、優れた耐震性を誇る施設を見学しました。新幹線で移動し、午後は愛知県の村田製作所 犬山事業所にて、精密に切削する工作機械、品物を正確かつ高速に配置・配送する高度な物流システムに驚かされました。

2日目の午前は大阪ガス ガス科学館にて、タブレット端末を使ったクイズ形式でのガスの学習のほか、構内をバスで見学し、生活インフラを支える現場の一端を理解しました。午後はNHK大阪放送局 BKプラザにて、リアルタイムでの映像処理や立体的な音響技術を体験しました。さらに大阪大学 総合学術博物館では、機械式・真空管式の電子計算機、世界的に著名な大阪大学の研究者の業績などを知りました。

3日目の午前は関西光量子科学研究所にて、光(電磁波)の振る舞いや可視化、技術系職員による研究キャリアの紹介の講演の後に、最先端の実験室の一部を見学しました。午後は島津製作所 創業記念資料館にて、大学向けに開発した様々な教材や、島津 源蔵 親子の人生観に触れました。下り坂を上る回転体は純粋な物理現象なのですが、非常に不思議でした。

今後の進路や人生の参考になればという観点で見学先を選定しました。学生たちにとってよい刺激になったと思います。



今年度は、横浜の現場見学に始まり明石海峡大橋での解散と長い移動距離でありましたが、天候にも恵まれ土木を学ぶ充実した見学旅行となりました。

一日目は、国土交通省関東地方整備局のご協力により横浜環状南線と横浜湘南道路を見学し、首都圏交通網の整備状況や災害時の輸送路としての重要性を学びました。

二日目は、特有な生態系が形成され、また湖を中心とした独特な水文化が息づく琵琶湖を学ぶため滋賀県立琵琶湖博物館、田辺朔郎先生が築き土木学会選奨遺産に指定されている琵琶湖疏水、その後、京都から神戸へ移動し阪神・淡路大震災の被害から復興の道のりを展示する防災未来センターを見学しました。

三日目は終日自由行動とし、不動な人気のUSJの他にも有馬温泉や京都旅行に出かけたりと、学生は思い思いに過ごしました。四日目は、橋の科学館と明石海峡大橋を見学し、多くの木更津高専OBも建設に携わった巨大な吊橋のスケールに圧倒され、見学旅行を終えることになりました。

土木に関する幅広い知識や技術、知恵を学ぶことができ、今後の勉学や進路選択に役立ててもらえると嬉しいです。



学生の特別表彰者一覧

次の学生の皆さんは、課外活動および学業において優れた成果を挙げた業績により特別表彰として校長より賞状と副賞が授与されました。

【特別表彰を受賞した皆さん】

第1回国際人工知能オリンピック (IOAI2024)

銅賞 情報工学科 3年 越智 優真

令和6年度優秀学生賞

機械工学科 5年 新澤 遼大

電気電子工学科 5年 内田 海斗

電子制御工学科 5年 羽生 虎太郎

情報工学科 5年 佐藤 浩一郎

環境都市工学科 5年 品田 晴己



特別表彰を受賞した皆さん
(高専だより97号で紹介された学生も含まれています)

お知らせ

保健室より

少しずつ春の訪れが感じられるようになってきましたが、インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症やノロウイルスによる感染性胃腸炎もまだ注意が必要な季節です。

感染症予防の基本は、正しい手洗いです。石鹸をよく泡立てて、トイレの後、食事の前、調理の前後、外出から帰宅した時など、忘れずに行うようにしましょう。

・十分な休養と栄養補給、うがい、咳エチケット、マスクの着用を心がけましょう。

・体調が悪い時には、電子出席簿で報告し登校を控えてください。

感染症に感染している、またはその疑いがあると診断された場合は、公欠（別途指定様式の提出が必要）となります。

必ず学校（学生課教務係0438-30-4040）に連絡してください。

・春休み中は生活のリズムが崩れがちです。新学期に良いスタートが切れるよう、休み中も規則正しい生活を送るようにしましょう！

〈毎日健康やかに過ごすための 睡眠5原則〉

1. 適度な長さで休養感のある睡眠を
・・・6時間以上を目安に十分な睡眠時間を確保
2. 光・温度・音に配慮した、良い睡眠のための環境づくりを心がけて
3. 適度な運動、しっかり朝食、寝る前の
リラックスで眠りと目覚めのメリハリを
4. 嗜好品とのつきあい方に気をつけて・・・カフェインは控えめに
5. 眠れない、眠りに不安を覚えたなら専門家に相談を



睡眠環境・生活習慣・嗜好品に気を付けてGood sleepを！

（厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備」研究班（研究代表者 栗山健一 国立精神神経医療研究センター）において作成された「Good Sleepガイド（ぐっすりガイド）」より引用）

年度末・年度始めの行事

- 2/26(水)～3/31(月) 学年末休業
3/19(水) 卒業式・修了式
4/1(火)～4/4(金) 春季休業
4/2(水) 開寮(2年生以上)
4/3(木) 開寮(新入生)
4/4(金) 入学式
4/7(月) 始業式
4/8(火) 授業開始
4/10(木) 健康診断

学生相談室より

学生相談室は、皆さん一人一人が充実した学生生活を送れるようにサポートしていくところです。相談内容については、相談者の同意を得ずに他者に伝わることはありません。相談室は講義棟A 1階 保健室隣にあります。保護者の方の相談も対応いたします。

☆相談内容としては次のようなことが挙げられます。

- ・学業・進路について
- ・自分の性格や対人関係について
- ・健康について
- ・その他(家庭の事情で悩んでいる、経済的に困っている、恋愛、性、宗教のことで悩んでいる……)

☆いつ？

■ 学生相談室長及び看護師は、随時

■ カウンセラー

(長期休業期間や試験期間は変更の可能性があります)

月曜日の12時～17時

火曜日の10時～17時

水曜日の13時～17時

木曜日の13時～18時

金曜日の12時～17時

■ スクールソーシャルワーカー

月1回(第3または第4水曜日)13時～17時

☆相談予約は、保健室で受け付けています。

電話:0438-30-4036

E-mail:soudan@a.kisarazu.ac.jp



教職員の異動

(採用) 令和6年10月1日

瀧本 俊介(学生課教務係)

(採用) 令和7年1月1日

柳澤 良樹(教育研究支援センター)

(配置換) 令和6年10月1日

大野 政人(人文学系 准教授) ←米子高専

(転入) 令和6年11月1日

小笠原哲士(総務課施設係) ←千葉大学

(退職) 令和6年11月30日

小澤 勇太(教育研究支援センター)

“祝”永年勤続教職員表彰

(勤続20年)

大枝 真一(情報工学科 教授)

浅野 洋介(電気電子工学科 准教授)

坂元 周作(電子制御工学科 准教授)

井上 由美(学生課学生支援係長)



独立行政法人国立高等専門学校機構

木更津工業高等専門学校

ホームページ <https://www.kisarazu.ac.jp/>



木更津高専だより第98号 令和7年2月発行

〒292-0041 木更津市清見台東2-11-1

☎0438-30-4000